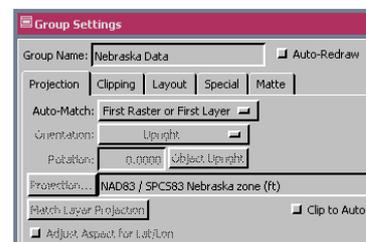
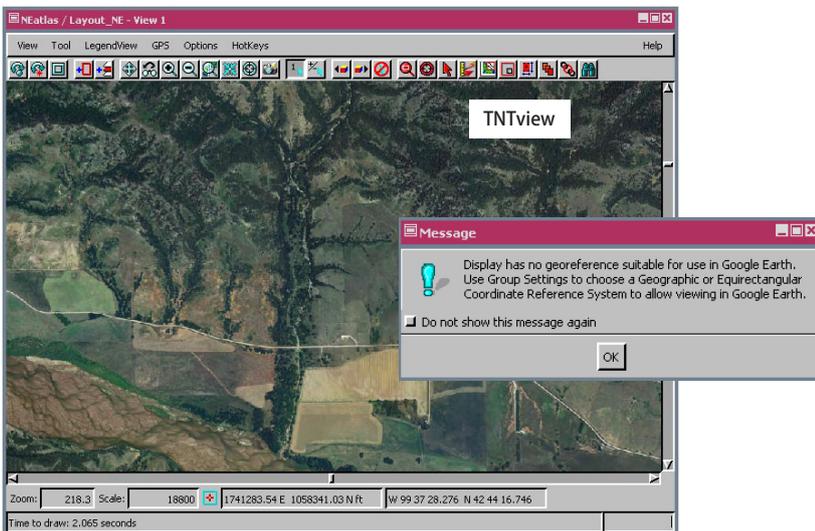


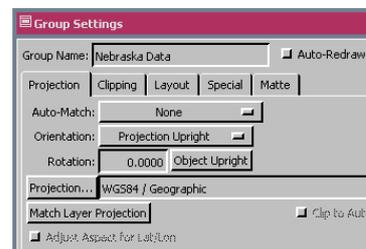
各種座標系での Google Earth の起動

WGS84 緯経度を使用した表示のクイックスナップショットを撮ると、自動的に KML ファイルが作られ、Google Earth が起動します (テクニカルガイドの「TNTview: 緯経度座標での Google Earth の起動 (TNTview: Launch Google Earth with Lat/Lon View)」を参照)。あなたのデータが別の座標参照系 (CRS) を使用していると、スナップショットで自動的に KML が保存されないかもしれませんが、TNTview で簡単に対処できます。使用している座標参照系と範囲が Google Earth での使用に適しておらず、ユーザのスナップショットの設定が KML ファイルを作成するようになっている場合、状況を知らせるメッセージが出て、修正する方法を教えてください。ベクタを WGS84 緯経度に歪ませたり、ラスタをリサンプルする必要はありません。スナップショットを作ろうとしている表示ウィンドウの座標参照系を変えるだけです。

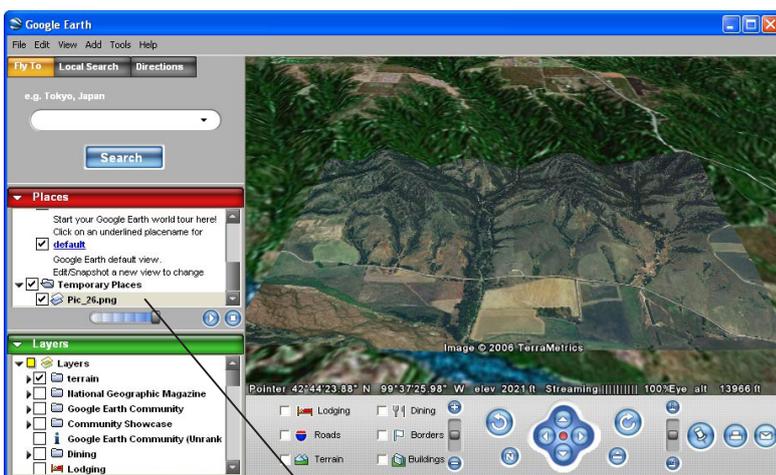
デフォルトでは、表示グループの座標参照系は最初のラスタまたは最初のレイヤによって決まります。レイアウトの座標参照系は非ローカルの最初のグループによって決まります。この座標参照系が著しく WGS84 緯経度 (地理座標) と異なる場合はスナップショットが保存されるとき KML ファイルが作られません。そのようなグループやレイアウトのスナップショットを Google Earth で重ねたいときは、関係するグループの [グループ設定 (Group Settings)] を開き、[自動マッチング (Auto-Match)] を [なし (None)] に設定し、[投影法 (Projection)] ボタンをクリックして座標参照系に [WGS84/ 地理座標 (WGS84/Geographic)] を選択します。そしてスナップショットを撮る前に、その投影法 (地理座標) での表示になるよう再描画する必要があります。



左図の表示での設定 (デフォルト設定)

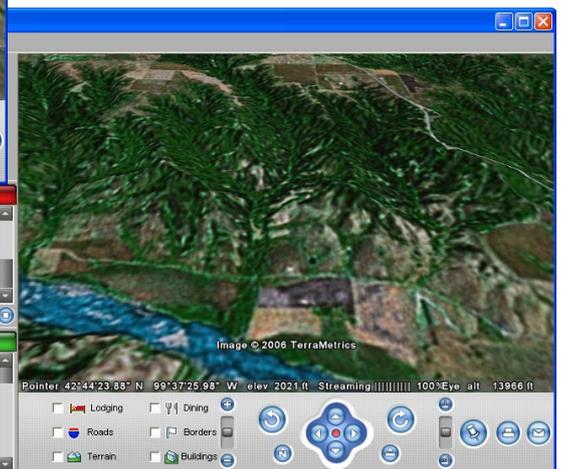


スナップショットで KML ファイルを生成する設定



スナップショットのレイヤ

TNTview を使って「Land Viewer Nebraska Statewide atlas」の DVD から正射写真レイヤを表示しています (一番上の図)。このレイアウトの座標参照系は当初「SPCS83 Nebraska zone (ft)」でした。そのため、初めてクイックスナップショットボタンを押したとき図のようなメッセージが表示されます。座標参照系を WGS84 に変更すると、スナップショットで KML ファイルが生成されます。Google Earth には TNTview の表示キャンパスのスナップショットが重なって表示されています (上図)。右図はオーバーレイの表示をオフにしたものです。



表示を Google Earth が求める緯経度座標参照系を使用するように設定して再描画すると、スナップショットのときに KML ファイルが生成されて Google Earth を起動して使えるようになります。この機能は **フリーの TNTAtlas を含む** 全ての TNT 製品にあります。TNTAtlas では、グループの投影法を変更する必要がある場合は、[オプション (Options)] メニューの [レイヤマネージャを表示 (Show Layer Manager)] でレイヤマネージャを開きます。